

一般財団法人 GovTech東京
令和6年度第7回理事会議事録

- 1 開催日時 令和7年3月7日（金）16時30分から17時16分まで
- 2 開催場所 一般財団法人GovTech東京会議室
- 3 出席役員名 宮坂学理事長、高野克己副理事長、井原正博業務執行理事、
中野啓太業務執行理事、畑中洋亮業務執行理事、
浅場理早子理事、米田恵美理事、
葉山良子監事
- 4 決議事項
 - 第1号議案 2024年度収支予算の補正
 - 第2号議案 2025年度事業計画及び収支予算
 - 第3号議案 DX推進に向けた協働事業実施に係る基本協定書の改正及び締結
 - 第4号議案 DX推進に向けた協働事業実施に係る基本協定書に基づく業務の執行及び
経費の支払等に関する年度協定書の締結
 - 第5号議案 一般財団法人GovTech東京処務規程の改正
 - 第6号議案 評議員の辞任の伴う後任候補者の推薦
 - 第7号議案 評議員会の招集
- 5 報告事項
 - 報告第1号 2025年度資金運用計画
- 6 議事の経過及びその結果
 - (1) 議長の選出、定足数の確認及び議事録署名人選出
開催に先立ち、定足数を満たす出席があったので、開会を有効と認めた。定款第39条
及び理事会規程第6条に基づき理事長を議長とすること、定款第43条及び理事会規程第
11条第3項に基づき議事録の署名は出席している理事長及び監事が行うことを確認し
議題に入った。
 - (2) 第1号議案 2024年度収支予算の補正
第2号議案 2025年度事業計画及び収支予算
ア 説明及び質疑

(第1号議案及び第2号議案は、収支予算に関する議案であり、関連があることから、事務局より一括して資料に基づいて説明を行った。)

(説明の後、議長が質疑を求めたところ、以下の発言があった。)

(発言要旨)

790億のポイントの運用は東京都ではなく、GTTで実施するという理解で良いか。

ポイントを含め運用について、東京都は単年度で動くところがあるが、この事業は複数年度で見ていくことになるため、GTTでしっかり運用していくと位置づけられ、我々が引き受けた。

デジタル開発センターであり、ポイント運用センターにGTTになる。

年度を跨ぐ業務の場合、今までどおり外注委託すると、今年作ったポイントシステムの運用引き継ぎにより1か月止まってしまう可能性がある。利用者としては意味の分からない話なので、年度を跨ぐ仕事は受け皿があって良かった。

多額のポイントを正確に処理するオペレーションが発生するため、ポイント会計のことなど、ご助言いただきたい。長くやる仕組みになるので、間違いのないようやっていきたい。

運用はTTPのチームがメインで行うのか。

体制としては、東京アプリという開発部門プロジェクトチームを理事長直下に作っている。管理部門、開発部門等色々入っていないとできない。東京都もデジタルサービス局の局長直下にプロジェクトチームがあり、バディを組んで進めていく。

事業計画書について、去年9本柱だったものを、内容自体は変わっていないが区分けをまとめた認識で良いか。

取組み自体は、違いがあるものとなないものそれぞれある。中期経営計画に基づいた構成に大きく変えている。それに伴い新しい取組み、昨年度なかった取組みも入ってきている。昨年度のものを純粹に組み替えたというよりは、中期経営計画の考え方をベースにして新しく事業計画書を作った。継続して実施している区市町村の支援への取組み等は、中期経営計画の軸に合わせて入れ込んでいる。

今年の第2期の事業報告は今までの区分でそれぞれの進捗を記載し、来期に向けて新しい体制にするということによいか。またはそこまでは書かず、2期は振り返りだけか。

次年度5月、6月に予定している定時の理事会、評議員会で、決算と合わせて事業報告書という前年度分の事業についてご報告させていただくので、その中にはご指摘いただいたような前回の9本柱の前提でご報告はさせていただく。さらにご指摘いただいたように数値的なものがあまり出てきていないので物足りない感じにはなるのではないと思うが、可能な限り出せるものは出していく。2025年度からはこの事業計画書に従い、これはこれとしつつ、理事連絡会も設定させていただき、色々な深いお話を含めて、実績の状況や課題感なども外部理事・監事の皆さまと意見交換をさせていただく場を設けていきたいと考えている。

9事業が新しい事業計画に移行する時に、どう変わったか図があると良い。

今後用意するようにしたい。作っていたのを今回省いたので、連絡会などの機会に9事業がどう紐づいているのかなど説明させていただきたいと考えている。

東京アプリそのものは、今はベンダーさんが作っているが、非常に重要なソフトウェアになるので、内製開発に切り替えようと思っている。秋ぐらいを目途に開発に着手する予定。

ソフトウェアの資産化をしっかりとやらないといけない。ソフトウェア資産を増やしたい。バランスシート上のソフトウェアのうち、買ってきたソフトウェアではなく、自分たちで作ったソフトウェアを分けて見られるようにしたい。そこを増やすことが財団をつくった意義でもある。その計上の仕方をどうするか。稼働時間等記録していかなければならない、など、そのあたりのことを皆様からご助言いただけると手戻りがないと思うので、ポイントの会計処理とソフトウェアの資産化のところ、両方とも大事になってくるので、今後につながるような助言をいただけるとありがたい。

イ 決議

決議は議案ごとに行う。第1号議案について、議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

続けて、第2号議案について、議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

(3) 第3号議案 DX推進に向けた協働事業実施に係る基本協定書の改正及び締結

第4号議案 DX推進に向けた協働事業実施に係る基本協定書に基づく業務の執行及び経費の支払等に関する年度協定書の締結

ア 説明及び質疑

(第3号議案及び第4号議案は、基本協定書に関する議案であり、関連があることから、事務局より一括して資料に基づいて説明を行った。)

(説明の後、議長が質疑を求めたところ発言はなかった。)

議長から、両議案については、団体運営の一層の公正性を確保する観点から、決議には加わらないこととする旨の発言があった。事務局から、議長が決議に加わらないため、定款39条及び理事会規程第6条第2項に基づいて副理事長が議長を務めることを説明した。

イ 決議

決議は議案ごとに行う。第3号議案について、議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

続けて、第4号議案について、議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

議長が理事長に戻された。

(4) 第5号議案 一般財団法人GovTech東京処務規程の改正

ア 説明及び質疑

(事務局が資料に基づいて説明を行った。)

(説明の後、議長が質疑を求めたところ、以下の発言があった。)

(発言要旨)

東京アプリに関して、東京都とのやりとりは、デジタル事業本部のトップの方を介して、配下のメンバーで動かしていくかと思うが、それ以外の案件は、GTTの窓口はどこを通すのか。例えばいくつかの部門を跨ぐようなプロジェクトが結構あると思っていて、その案件が東京都から降りてきたときに、最初どこで受けて、どう動くのかを知りたい。

東京都の大小様々な事業がある中で、先ほど話があった政策DXという取り組みがあるが、それはGTTのデジタル戦略本部が対になって進める形になる。その他各局でシステムを構築する話があれば、DX協働本部の中の都政DXグループが相對しながら進めるとなり、一元的に都庁との窓口が決まっているというよりも、プロジェクト毎

に相手方が協働事業という形で決まっているところがあって、そことやりとりをする。全体的な調整は経営管理本部がやっていくので、経営管理本部を窓口にしながらか、どういう体制でいくか整理しながら進めている。

例えば、経営管理本部が窓口として立ちながら、実際案件を受けるのはデジタル戦略本部の例えば政策DX担当の方が受けると、事業によってはテクノロジー本部の力を借りながら、UI/UXグループに仕事が少し移動するなど分担されていくのか。

元々テクノロジーグループは技術的な側面で団体全体の横串を刺すグループになっているので、そこが色々なところに絡みながら、それぞれのところで事業が進むイメージ。

各局の支援で今まであった多いパターンは、ある程度フォーマット、ルールが決まっていて、DX協働本部に依頼が来た段階でDX協働本部長がアサインしている。そして、必要に応じてテクノロジー本部のUI/UXであったり、テクニカルグループの誰誰、セキュリティに関しては誰誰みたいなところは、そこでフィルターをかけ、テクノロジー本部長の意見を聞きながらアサインをかけるという構造でやっている。

GTTは東京都のデジタルサービス局とバディ体制を組んでいるので、基本的にはこの本部に相対するデジタルサービス局の部がある。先ほどDX協働本部長がご説明したように、都政DX関係であれば、都政の都庁各局を担当している窓口部門があるので、そことDX協働本部が常に一緒になって働いているので、ルートが入ってくると、そこでそれぞれの局の支援をする。区市町村関係は、区市町村と直接やるというよりは、区市町村についても東京都側に区市町村の職員が必ずいて、そこを最初の入口にしながらか、技術的なところはDX協働本部の区市町村DXグループに入ってくるといったイメージ感。そのため、先ほどのデジタル事業本部の東京アプリは、デジタルサービス局の事業として成り立っていて、こちらもカウンターにデジタルサービス局のデジタル戦略部が東京アプリを政策的に担っていくポジションがある。そことデジタル事業本部が対になって事業を進めていくイメージ。プロジェクトベースであると、結局そこだけではなくて横串を刺して、おっしゃったようなUI/UXがデジタル戦略本部のケアに入ったり、DX協働本部のケアに入ったり、というような形がまさに機能的に様々な本部の横串を刺して事業をさらに前に進めていくといった形で整理している。

横串で動いているのはデジタルサービス基盤開発本部とテクノロジー本部のメンバーの方々か。

技術という意味ではおっしゃるとおりで、例えばコーポレートITグループはまさに横串が刺さっているので、団体のシステム系を全部担っており、ここが横串を刺して色々なケアをしている。テクノロジー本部のUI/UXやテクニカル、技術統括グループなどは、団体全体のことを試走しながら、それぞれの本部のガイドラインを決める、デザインのベースを決めるといったことをする。

イ 決議

議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

(6) 第6号議案 評議員の辞任の伴う後任候補者の推薦

ア 説明及び質疑

(事務局が資料に基づいて説明を行った。)

イ 決議

議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

(7) 第7号議案 評議員会の招集

ア 説明及び質疑

(事務局が資料に基づいて説明を行った。)

イ 決議

議長が裁決を求めたところ、全員一致で原案どおり可決された。

(8) 報告第1号 2025年度資金運用計画

(事務局から説明を行った後、評議員に対し意見等を求めたが、発言はなかった。)

本評議員会はすべての審議を終えたため、議長は17時16分閉会を宣した。

以上の議事のでん末を記録し、これを証するため記名押印する。

議長（理事長） 宮坂 学

議事録署名人 葉山 良子